

母間小が全国トップ10

遠隔授業の取り組みで優秀賞

教職員支援機構 NITS大賞

【東京支社】独立行政法人教職員支援機構(NITS)の第2回「NITS大賞」の発表会が2日、東京都内であり、徳之島町立母間小学校(発表者・赤崎公彦教諭)の取り組み「遠隔授業で複式指導を充実―小規模校で高め合う徳之島型モデル」が優秀賞を受賞した。

育現場の課題解決を目指して取り組んだ実践活動を募集し、優れた活動を表彰・共有する事業。全国から86点の応募があり、優秀賞10点を選出された。

母間小の実践に対し、審査員や教育関係者は「インターネット

回線とICT(情報通信技術)機器を活用し、小規模学校が増えている中で複式学校の制約を打破する取り組み」と高く評価した。授賞式に臨んだ赤崎教諭は「全ては児童のために」を合言葉に関係者が課題解決と学びの質の向上に取り組んだ。ICT機器を活用しながらも、児童の直接交流や職員間の相互研修など対面での交流も重視してきた。取り組みが児童の学力と学びの質の向上につながったことが何よりの成果」と3年間の取り組みを振り返った。

NITSは今回の優秀賞10点の発表動画と、応募のあった全エントリーシートをインターネットで公開してとめた事例冊子も発行する予定。

授賞式に出席した母間小の赤崎公彦教諭(左から2人目)―2日、東京都千代田区



授賞式に出席した母間小の赤崎公彦教諭(左から2人目)―2日、東京都千代田区